

## 広島市感染症週報

広島市感染症対策協議会・広島市感染症情報センター

## コメント

## 1. 感染性胃腸炎

定点当たり3.83人とほぼ横ばいとなっています。

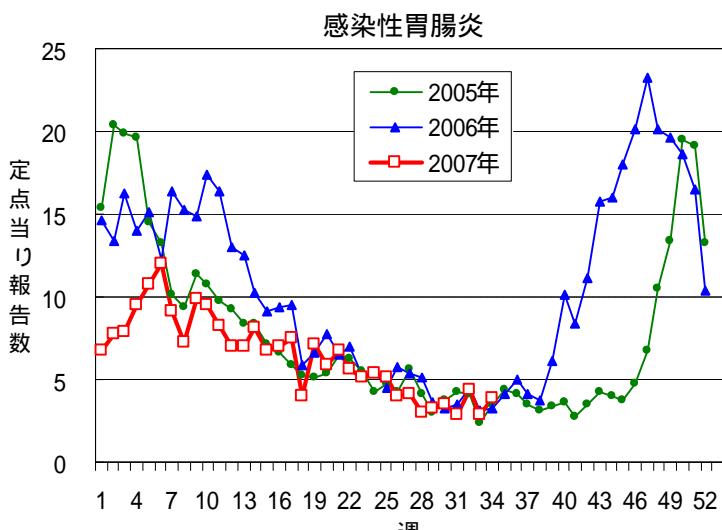
## 2. ヘルパンギーナ

定点当たり0.71人と減少しています。安芸区では3.5人となっています。

## 3. 麻疹

小児科定点から1人報告されています(安佐北区 15~19歳)。

(注)前週(第33週)は、お盆期間中の医療機関休診の影響があるため、第34週の各疾患の増減の評価及び「5類感染症報告状況」(下表)の発生記号の表示は、前々週(第32週)との比較で行っています。



## 5類感染症報告状況(定点把握対象分)

疾患名	報告数	定点当たり	平過去5年(注年1間)	発生記号	疾患名	報告数	定点当たり	平過去5年(注年1間)	発生記号
インフルエンザ(注2)	-	-	-		麻疹(注3)	1	0.04	0.02	
咽頭結膜熱	7	0.29	0.32	↑↑	流行性耳下腺炎	2	0.08	1.13	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	18	0.75	0.45	→	RSウイルス感染症	1	0.04	-	
感染性胃腸炎	92	3.83	2.97	→	急性出血性結膜炎	-	-	-	
水痘	10	0.42	0.58		流行性角結膜炎	15	1.88	1.65	
手足口病	10	0.42	0.66	↑↑	細菌性髄膜炎	-	-	-	
伝染性紅斑	6	0.25	0.35		無菌性髄膜炎	-	-	0.29	
突発性発しん	25	1.04	1.19		マイコプラズマ肺炎	1	0.14	0.29	
百日咳	1	0.04	0.02		クラミジア肺炎(注4)	-	-	-	
風しん	-	-	0.02		成人麻疹	-	-	0.03	
ヘルパンギーナ	17	0.71	0.69	↑↑					

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1.2以上の増減
増減	↑↑	↓↓	前週と比較しておおむね1.1.5~2の増減
微増減	↑↑↑	↓↓↓	前週と比較しておおむね1.1~1.5の増減
横ばい	↔	↔	ほとんど増減なし

報告数が少ないなど、傾向の判断が不適切と思われるものについては、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注1)過去5年間(RSウイルス感染症は3年間)の同時期平均(定点当たり)

(注2)鳥インフルエンザを除く

(注3)成人麻疹を除く

(注4)オウム病を除く

## 1類~5類感染症報告状況(全数把握対象分)

類型	疾患名	報告数	累積	備考
2 結核		6	102	女性(10歳代)・1人、男性(30歳代)・2人、女性(30歳代)・1人、女性(40歳代)・1人、女性(60歳代)・1人
3 腸管出血性大腸菌感染症		3	8	男性(10歳未満)・O121、女性(10歳未満)・O121 女性(10歳未満)・O121
5 後天性免疫不全症候群		2	12	男性(20歳代)・無症候、男性(30歳代)

## 5類感染症報告状況の推移(定点把握対象分)

		インフルエンザ	A群溶血性咽頭炎	球菌性咽頭炎	感染性水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん	流行性耳下腺炎	RSVウイルス	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性結膜炎	無菌性結膜炎	マイコプラズマ	クラミジア肺炎	成人麻しん	
(注1)	(注2)	イ ン フ ル エ ン ザ	咽 頭 結 膜 熱	球 菌 咽 頭 炎	溶 血 性 咽 頭 炎	感 染 性 水 痘	手 足 口 病	傳 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	風 し ん	ヘル パン ギ ー ナ	麻 し ん (注 2)	流 行 性 耳 下 腺 炎	感 染 症 (注 3)	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	細 菌 性 結 膜 炎	無 菌 性 結 膜 炎	マイ コ 普 ラ ズ マ	クラ ミ ジ ア 肺 炎	成 人 麻 し ん
報告数	第30週 第31週 第32週 第33週 第34週	- - - - -	9 9 17 5 7	25 26 16 10 18	83 70 96 69 92	9 11 12 3 10	15 14 19 4 6	9 5 7 2 6	20 15 21 7 25	1 - 1 - 1	65 41 35 10 17	2 1 3 1 2	5 7 3 - 1	- - - - -	6 7 2 9 15	- - - - -	- - - - -	3 1 3 - 1	- - - - -	- - - - -		
定点当り	広島市 第30週 第31週 第32週 第33週 第34週	- - - - -	0.38 0.38 0.77 0.21 0.29	1.04 2.92 4.36 2.88 3.83	3.46 2.92 0.55 0.13 0.42	0.38 0.46 0.86 0.17 0.42	0.63 0.58 0.32 0.08 0.25	0.38 0.21 0.95 0.29 1.04	0.83 0.63 0.95 0.29 1.04	0.04 - 0.05 - 0.04	- - - - -	2.71 1.71 1.59 0.42 0.71	0.08 0.04 0.14 0.04 0.04	0.21 0.29 0.14 - 0.08	- - - - -	0.75 0.88 0.40 1.13 1.88	- - - 0.14 -	0.43 0.14 0.43 - 0.14	- - - - -	- - - - -		
	全国 第32週 第33週	0.08 0.07	0.41 0.28	0.83 0.55	2.77 2.26	0.62 0.60	1.25 0.85	0.42 0.22	0.75 0.59	0.02 0.02	- -	2.95 1.78	0.02 0.02	0.35 0.29	0.02 -	0.61 0.62	0.02 0.01	0.05 0.06	0.28 0.31	0.02 0.02	0.02 0.05	

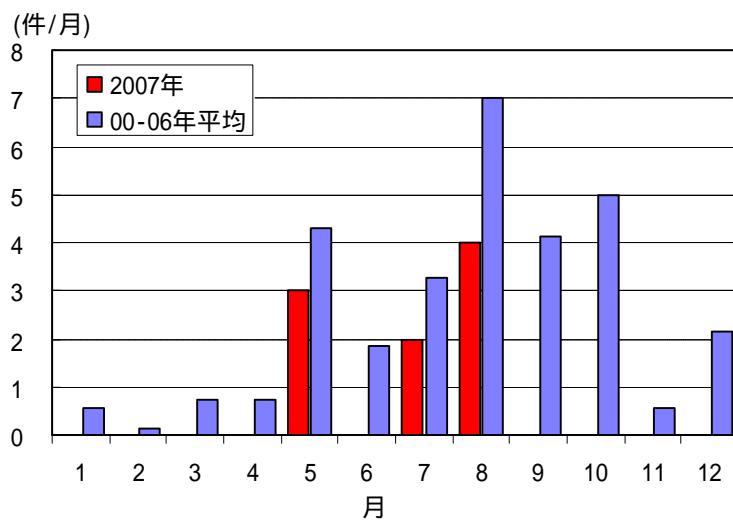
(注1)鳥インフルエンザを除く (注2)成人麻しんを除く (注3)オウム病を除く

## 新たに判明した病原体検査結果

診断名	患者年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
咽頭結膜熱	5	女	2007/07/18	咽頭拭い液	アデノウイルス3型
咽頭結膜熱	1	男	2007/07/20	咽頭拭い液	ヒトメタニューモウイルス

## 参考】広島市における腸管出血性大腸菌感染症の月間報告数の推移

(2007年8月27日現在)



腸管出血性大腸菌感染症は、大腸菌O157、O26など、ベロ毒素を産生する大腸菌によって引き起こされる感染症で、症状のないものから、腹痛や下痢を伴うもの、血便を伴うものなど症状は様々です。

また、患者の6~7%が重症化して、溶血性尿毒症症候群(HUS)や脳症など重篤な合併症を発症するといわれています。特に子どもと高齢者は重症化しやすいので、注意が必要です。

例年、気温が高い5月から10月ごろにかけて多発する傾向にあります。今年はこれまでのところ、例年と比べて報告数はやや少ない状況ですが、今は気温が最も高い時期となっており、大腸菌などの細菌が繁殖しやすい気象条件となっていますので注意が必要です。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じことがあります。  
なお、感染症情報の詳細についてはホームページをご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.jp/shakai/eiken/center.html>

### 【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号  
TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail [eiken@city.hiroshima.jp](mailto:eiken@city.hiroshima.jp)